

道をあるき、
道をつくる。

松浦 武四郎



えどじだい
江戸時代の三重県では、

さん にん
い だい
ひと
三人の偉大な人がいました。

ひと り め
はい く
かみ さま
まつ お ば しょう
一人目は、俳句の神様といわれる松尾芭蕉さん

ふた り め
に ほん
ふる
つた
二人目は、日本に古くから伝わる

ぶん か
かんが
かた
けん きゅう
がく しゃ
もと おり のり なが
文化や考え方を研究した学者本居宣長さん

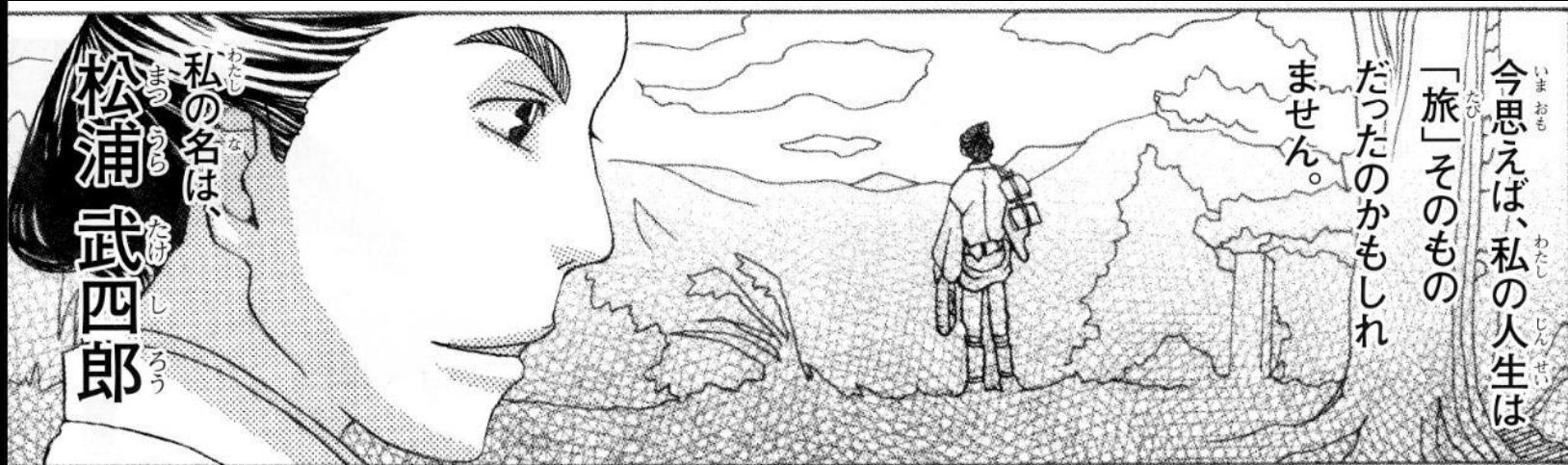
さん にん め
に ほん せん こく
ある
そして三人目が、日本全国を歩き、

ほっ かい どう
しら
まつ うら たけ し ろう
北海道のこと調べた松浦武四郎さんです。



江戸、そして
幕末、明治という
時代の中を私は
歩みました





その頃の私の愛読書は、
「名所図会」



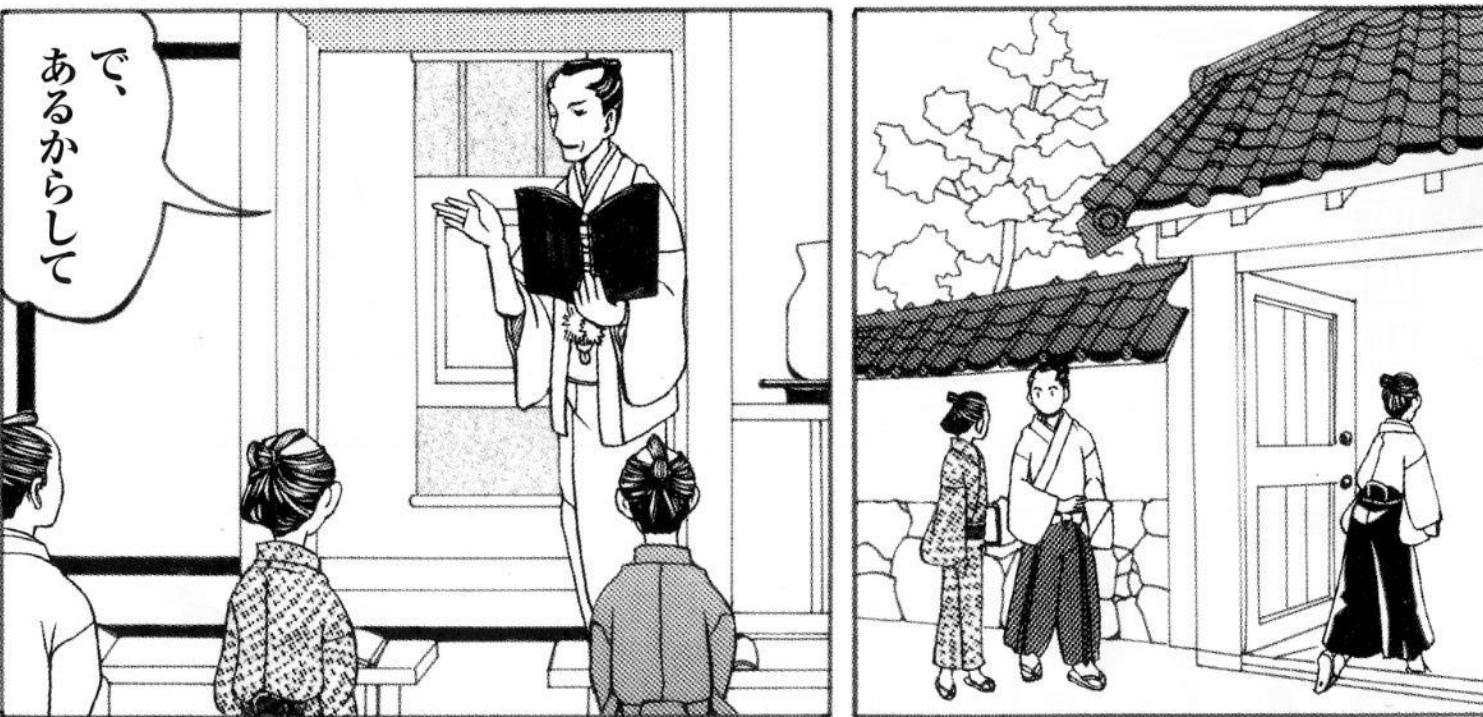
今で言う観光ガイドブック
ですね。

もう私の旅好きは、
始まっていたのかも…。



13歳、津藩の学者
平松樂斎先生の
塾に入門しました。

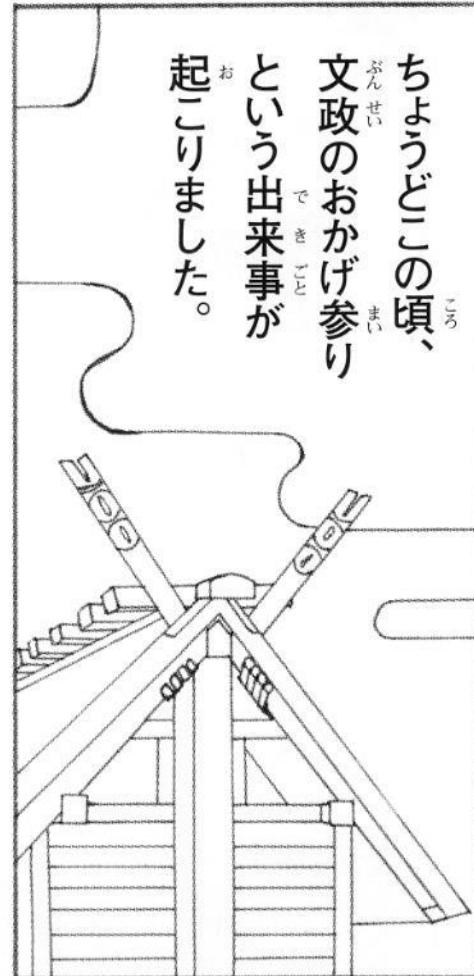






ちょうどこの頃、
文政のおかげ参り
という出来事が
起きました。

当時の日本の人口は
約3000万人、
その中から一年間に
約500万人もの人が
伊勢神宮にお参り
に來たのです。





この道の先には…



それを見ながら
私は思います、

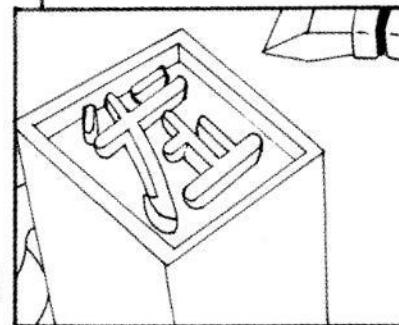
この多くの人びとは
どんな所から
来たのだろう

そこにはどんな
ものがあるのだろう



わたしの家の前の道は、
お参りに来る人たちの
昔からの道でした。

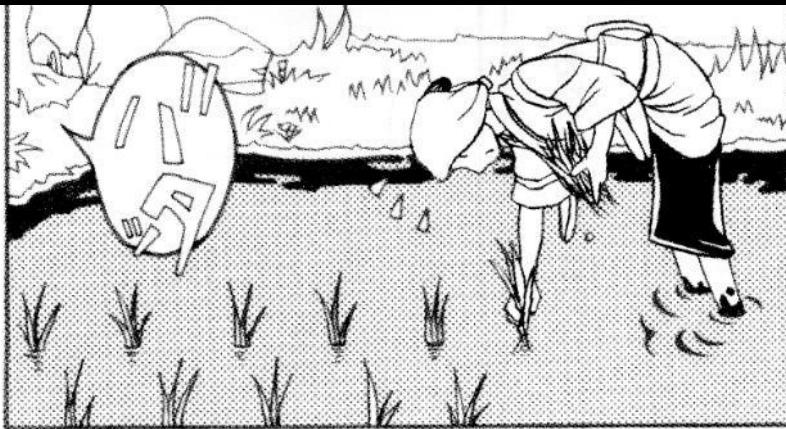






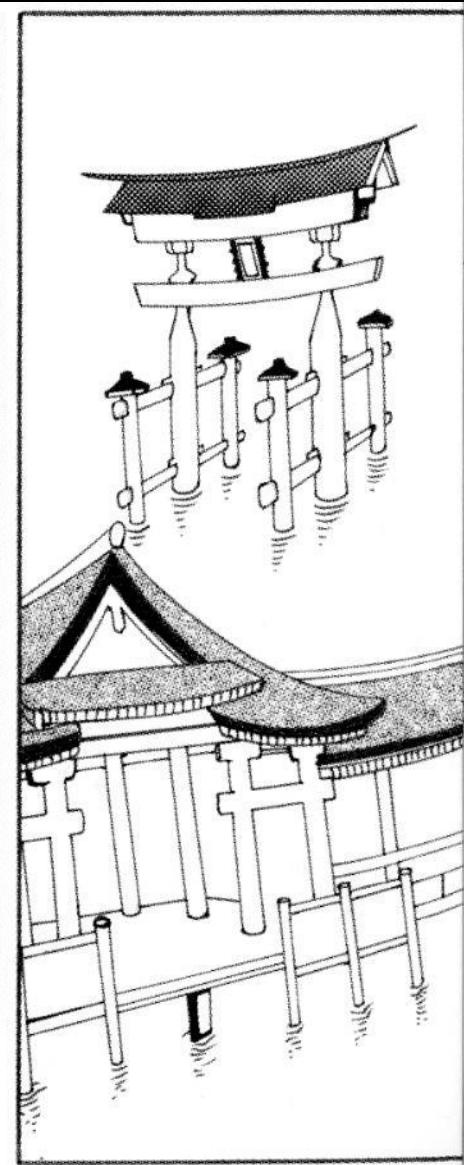
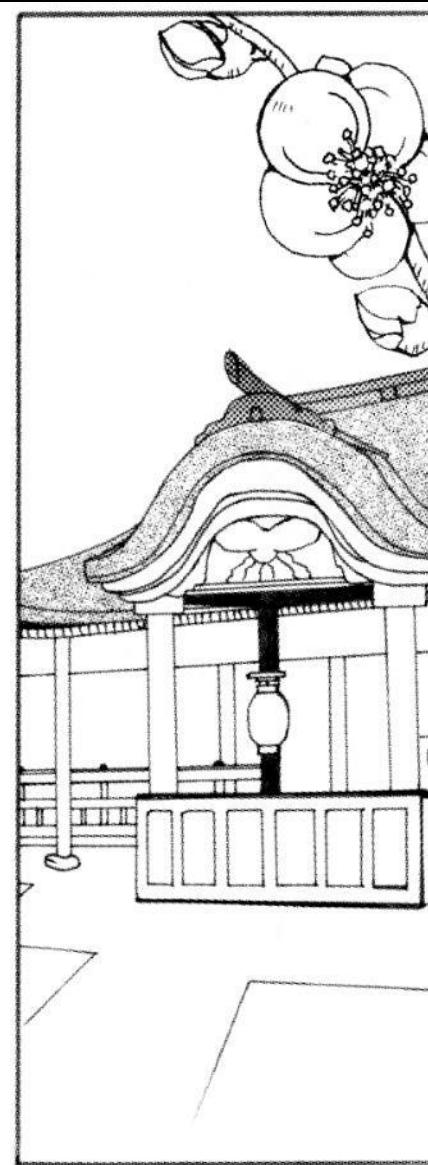








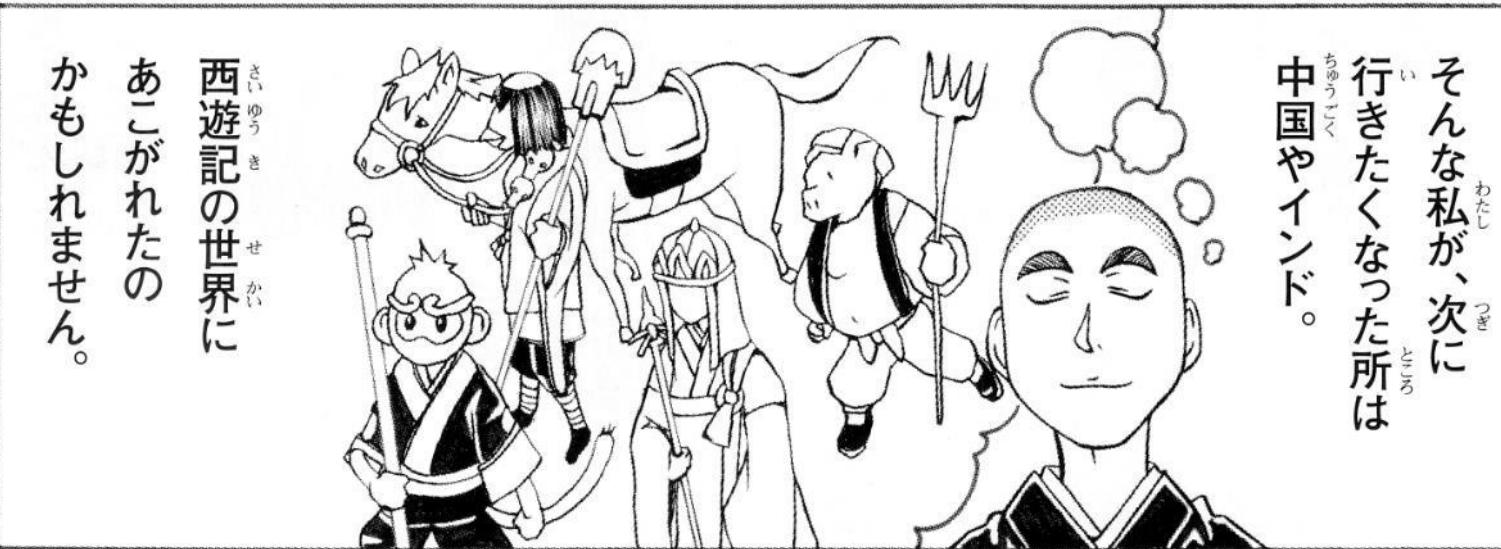




四国、中国、九州地方たび
旅をして知識を深めた私は、

病気が治り
ますように。





西遊記の世界に
あこがれたの
かもしません。

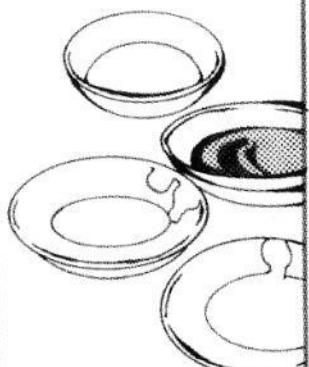
そんな私が、次に
行きたくなつた所は
中国やインド。



私は渡りましたが——

日本は外国へ行く
ことが厳しく禁止され
ていました。

中国へ行くことを
諦めた私は、



しかたない
諦めるか…



漁船に頼み込み
ましたが、誰も引き
受けくれません。

がいこくわた
外国へ渡るのを
手伝つたら
おら達まで重罪
になつちまう



光明寺の和尚さんに
漢詩や絵を教えても
うつていました。



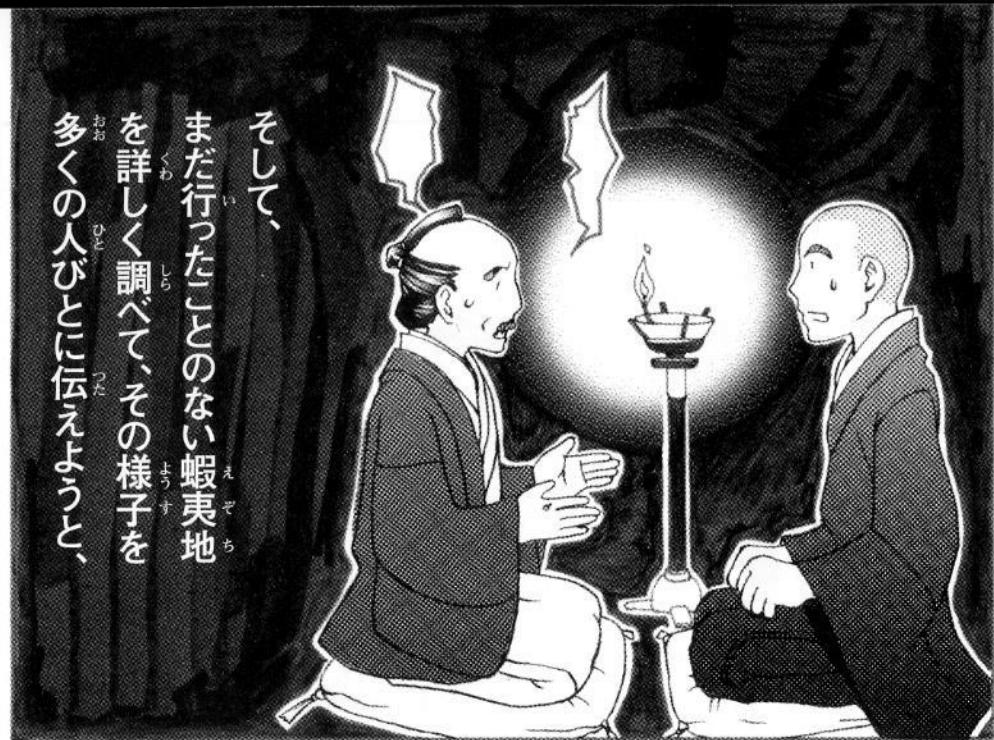
そんなある日、長崎の
有力者津川蝶園という人
からある話を聞いたのです。



日本を狙つていて
北にある蝦夷地
(今の北海道)に
たびたびやつてきて
いるんじゃそうな。

日本の北にある
ロシアという
大きな国が、





私は心配になりました
何とかして日本を守ら
ねばと強く思いました

